

科学と福祉をつなぐ

～科学コミュニケーターとサイエンスカフェにできること～

中川律子(さかさパンダサイエンスプロダクション)

科学コミュニケーターとして「科学」と「社会」をつなぐ活動をしています。なかでも「福祉」をつなぐために大切な、障害児・者の現場のニーズや、双方の理解による歩み寄り、科学教育普及活動の可能性についてご紹介します。

1. 実践対象

身体や脳の機能に個性のある人々。「科学は難しい」と思っている人々。

2. 実践可能な場所、必要な道具や準備

ユニバーサルデザインやバリアフリーに理解のあるスタッフの揃ったカフェや喫茶店、パブやバーなど、サイエンスカフェが開催できる場所ならどこでも可能。

3. 科学コミュニケーターとサイエンスカフェにできること

3.1. 東京都三鷹市「星と風のサロン」での活動

「科学コミュニケーター」は、科学と社会をつなぐコミュニケーション活動を行い、科学の専門家と一般市民との対話の「場」を創出します。たとえば、科学館の学芸員、研究機関広報担当者、サイエンスライター、理科の先生なども、「科学コミュニケーター」といえます。

「サイエンスカフェ」は、カフェなどで、科学の専門家と一般の市民が科学について気軽に語り合う「場」です。講演会やシンポジウムとちがいで、専門家と非専門家が特定のテーマについて議論を楽しむ、双方向性のコミュニケーションの手法として注目されています。

筆者が担当をしている東京都三鷹市のサイエンスカフェ「星と風のサロン」は、2008年11月から毎週木曜夜に開催されています。会場の「星と風のカフェ」は、三鷹市とその近郊の22か所の福祉作業所の自主製품을展示・販売するアンテナショップです。参加者は近隣地域にお住まいの常連の方をはじめ、他県などの遠方から来たサイエンスカフェが初めての方もいらっしゃいます。また、「天文好き」や「科学好き」だけでなく、好奇心旺盛な幅広い年齢層の方々に、ご参加いただいています。サロンへの参加により「福祉に興味を持つきっかけになった」「より福祉に興味を持った」と答える方が多いです。

サロンの参加費は1500円で、500円分の店内利用券とフリードリンクがついています。店内利用券で作業所の製품을購入することにより、福祉にも貢献できるという点が特徴的です。

少数ではありますが、実際に作業所で活動をされている方が、サロンに興味を持って参加されることもあります。「科学を楽しんでいるのは一部の人だけ」「科学関係の人に福祉関係のことはわからない」と思われないう、身体や脳の機能に個性のある人や、「科学は難しい」と思っている人などの意見をきめ細かく吸い上げ、より多くの方に気軽に足を運んでもらえるよう工夫を重ねています。



写真1 「星と風のサロン」の様子



写真2 参加者の声から生まれた「月の満ち欠けクッキー」

4. 実践上役立つヒントや留意点

個性のある参加者には、個性に合わせた対応が必要です。

車椅子・松葉づえ・補聴器・まぶしさに敏感・色覚の個性・理解度に個性・知識に個性

→動線の確保・マイク音量の調節・照明の調節・言葉づかいの工夫

特別なことではなく、お互いの歩み寄りや思いやりの気持ちが大切です。

5. 実践例の評価

アンケート結果からは、サロンへの参加により「福祉に興味を持つきっかけになった」「より福祉に興味を持った」と答える方が多いです。また、車椅子の方や、光に弱い方、耳の遠い方のご意見を参考にして、動線や光量や音量についての配慮により、微力ながら改善が進んでいます。

天文好きのサイエンスカフェ参加者の声から生まれた「月の満ち欠けクッキー」や「太陽の黒点クッキー」は、評判もよく売れ行きも好調です。購入者のさらなるアドバイスを取り入れたり、作業所の方々の工夫や努力により、品質の向上や価格の変更など、改善が加えられています。

6. 一般市民への科学教育普及活動へのフィードバック

「サイエンスカフェ」は、学術的な科学を「難しい」「一部の人のためのもの」と感じている一般市民にとって、専門家との壁を取り除いて気軽に対話を楽しむことができる空間となっています。また、話題提供者である科学の専門家にとっても、非専門家が関心を持つ分野や、疑問に感じる点を知る機会が得られることは、研究の中だけでは得られない有益な体験です。双方のコミュニケーションを可能にする「サイエンスカフェ」という「場」と、科学と社会をつなぐ「媒介者」である「科学コミュニケーター」の存在は、科学教育普及活動の中でも重要な役割を占めていると考えられます。また全ての人を対象にした「科学と社会をつなぐ」これらの活動というのは、そのまま「科学と福祉を」つなぐための活動でもあるといえます。